

[1] 鉄スクラップ

中部商取、秋にも上場

—市場規模1兆円、ヘッジに威力—

編集部

中部商品取引所（中部商取）が計画していた鉄スクラップが秋にも上場される運びになりました。会員には日本を代表する総合商社とその子会社がズラリと並び、リスクヘッジ手段としての機能に期待が高まっています。市場規模1兆円ともいわれる鉄スクラップの上場が成功すれば、産業界の商品先物取引の利用に新たな1ページが書き加えられることでしょう。

価格の乱高下が悩みの種

中部商取が鉄スクラップの上場を計画したのは2004年春。「鉄リサイクル資源流通安定化検討委員会」を立ち上げて検討を重ねました。今年3月には「上場検討委員会」を発足させ、その結果、「ゴーサイン」が出たところから農林水産省と経済産業省に認可を申請、4月20日、早くも官報に公示されました。

これで、3カ月間、異論が出なければ上場が可能になります。それを見越し、中部商取ではすでに、一般委託者から注文を受託する商品取引員会社の営業マンへの研修も行っており、準備万端。早ければ10月にも上場したい意向です。

鉄スクラップの発生量は年間約5,000万トン。電気炉を使って製鋼する電炉メーカーの主原料となっています。かつては輸入商品でしたが、1995年に輸出入が逆転。最近では輸



出が600万トン以上に達している半面、輸入は10万トン台まで落ち込み、資源輸入国日本では数少ない「輸出资源」になっています。ところが、鉄スクラップの流通業者、使用する電炉メーカーにとつての悩みの種は価格の変動。2001年に1トン7,000円台だったものが、2004年秋には2万7,000円台になり、最近では再び2万円前後になるなど、じゃじゃ馬のような荒っぽさです。

国内の電炉メーカーに納める場合は集荷してから出荷まで早ければ数日間程度が多いため、流通業者もそれほどヘッジの必要性はありません。だが、問題は輸出。港に集めてまとまってから船積みするので、長いと2カ月程度もかかります。その間に鉄スクラップ価格が変動すると、思わぬ損害を被りかねません。電炉メーカーも、鉄スクラップ価格は毎日変動するのに、製品価格は月1度しか変えられず、ギャップがありました。しかし、先物取引があれば、その間は先物取引でヘッジしておけば、問題はありません。

鉄スクラップ取引要綱（案）

項 目	鉄スクラップ
取引の対象物品等	(1)市 場：鉄スクラップ市場 (2)上 場 商 品：鉄 ス ク ラ ッ プ (3)上場商品構成物品：鉄 ス ク ラ ッ プ (4)取引の対象商品：鉄 ス ク ラ ッ プ
取 引 の 種 類	現物先物取引
標 準 品	新断バラA
受 渡 供 用 品	・新断プレスA ・新断バラB、新断プレスB
先物取引の期限	6カ月以内の連続6限月制
呼 値・呼 値 の 単 位	呼値：1トン 呼値の単位：10円
取引単位・受渡単位	取引単位：20t 受渡単位：100t
取引の提示価格・税金	東京湾岸に所在するヤードへの販売価格とし、消費税その他の税金を除いた価格（地域間の価格差は当事者間で解決）。
受 渡 場 所	原則として、当事者による合意受渡し（炉前受渡しを含む）。 合意によらない場合は東京湾岸に所在するヤードとする。

総合商社がこぞって会員に

商品取引所に上場するには当業者（当該商品の生産、流通、購入に携わっている企業）が会員になる必要がありますが、今回は三菱商事、三井物産、伊藤忠、丸紅など日本を代表する総合商社か、その子会社が会員になりました。会員企業の取り扱いシェアは日本全体の50%以上にのぼるとわれています。このように、有力企業がこぞって参加したのは昭和20年代に商品先物取引が再開された時以来の出来事で、業界の期待の大きさが感じられます。

鉄スクラップ業界が上場で期待している点がもう2つあります。1つは商品取引所を通じて現物の販売・購入をしたいという点です。商品先物取引の重要な機能として「現物の授受」があり、年間1,000億円以上が商品取引所を通じて受渡しされています。鉄スクラップでもそれが行われれば、より簡単に現物が販売、購入できるからです。

もう1つが公正な価格形成です。鉄スクラップは電炉メーカーに渡す価格が取引の指標

となっていますが、メーカーによりバラバラで、新聞などは聞き取り調査をして、中間的な価格を発表していますが、商品取引所で売買されれば正確な価格が表示されます。

流通にも大きな変化

今回の上場に当たっては「新断バラA」という、工場から発生したばかりの比較的良質な品種を、取引する場合の標準品とし、ほかに受渡しできる品種としては、「新断プレスA」、若干、品質が落ちる「新断バラB」、「新断プレスB」を加えています。これらは検査が比較的容易で、受渡しする場合、問題が起らないとみためです。

価格は1トン当たり10円刻みで動かし、6カ月先までの連続6限月で取引するとしています。つまり、最長、6カ月先まで価格が分かり、ヘッジできるというわけです。

もし、鉄スクラップの上場が成功すれば、次は棒鋼、形鋼などの電炉製品の上場も行われる可能性があります。そうなれば、鉄鋼原料、製品の流通にも大きな変化をもたらすことでしょう。